

ビレットプランタによるサトウキビ夏植え用苗生産に適した植付時期と採苗圃面積

8～9月植え付け一翌年8月採苗で夾雑物の混入が少ない良質苗を多く確保でき、採苗圃面積は植付面積の1/10以下で良い

背景・目的

- ・労働力不足の深刻化 → ビレットプランタ植付面積の急激な増加
- ・ビレットプランタ植付はケーンハーベスタで採苗 → 調苗しないため従来より多くの苗量が必要 = 広い採苗圃場が必要
- ・ケーンハーベスタ採苗を前提とした効率的な苗生産技術が未確立

成果の内容

10～11月植えに比べ、8～9月植え一翌年8月採苗で、

- ・苗量、健全芽子数を多く確保でき、夾雑物の混入が少ない(図1, 表1)
- ・ビレットプランタ植付面積に対し、必要な採苗圃面積は1/10以下(表1)

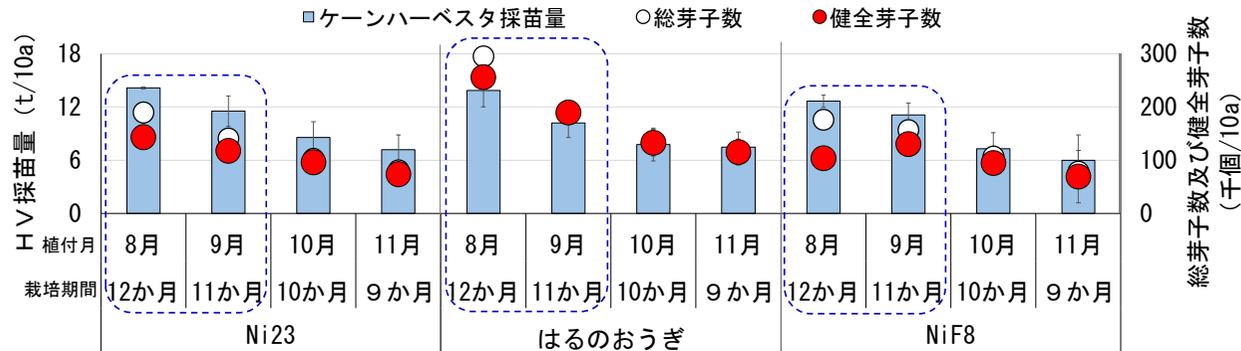


図1 ケーンハーベスタ採苗量とそれに含まれる総芽子数及び健全芽子数

表1 苗に含まれる夾雑物の割合及びビレットプランタ植付面積1haに必要な採苗圃面積

	夾雑物の割合 (%)			採苗圃面積 (a)		
	Ni23	はるのおうぎ	NiF8	Ni23	はるのおうぎ	NiF8
8月植え (12か月)	17.1	19.6	15.1	7.1 (61)	7.2 (56)	7.9 (58)
9月植え (11か月)	17.8	21.7	17.1	8.7 (74)	9.8 (76)	9.0 (66)
10月植え (10か月)	23.2	25.9	21.0	11.7 (100)	12.9 (100)	13.7 (100)
11月植え (9か月)	24.0	25.0	22.5	13.9 (119)	13.4 (104)	16.7 (122)

注1) 「夾雑物」はハーベスタで収穫されたもののうち、生葉や枯葉など茎部以外のもの

2) 表中 () の数字は、10月植え (慣行) の採苗圃面積を「100」とした場合の比率

期待される効果

採苗用の圃場面積を適正に確保



原料出荷向けの圃場面積増
→ 生産者の出荷量及び収益増加



ハーベスタ採苗ービレットプランタ
植付体系による夏植え栽培の拡大



サトウキビ生産量の増加

○普及対象・範囲
大島地区サトウキビ生産者及び技術員

鹿児島県農業開発総合センター
徳之島支場作物研究室

(公募事業名)「サトウキビ種苗専用栽培技術開発」
奄美群島糖業振興会委託